

# まんさく

第282号

発行  
特別養護老人ホーム光寿苑  
まんさく編集委員会  
和賀郡西和賀町湯本30-76-1  
TEL 0197-84-2526  
koujhu@fancy.ocn.ne.jp  
題字 元理事長 太田 祖 電

- ☆2頁★ \* 「今生より往く」 \* 寄附・寄贈 \* 敬老を祝う会フォト
- ☆3頁★ \* 「ひやりはっと及び事故まとめ」(令和4年度上半期)
- ☆4頁★ \* 「地域の窓」(湯本鬼剣舞保存会ご来苑、西和賀町福祉まつり)
- ☆5頁★ \* 想…「災害を捉える」
- ☆6頁★ \* 地域密着型事業紹介(写真と運営推進会議録)
- ☆7頁★ \* 「元気です!家族会【特別編】」
- ☆8頁★ \* 「光寿苑の日々」(4コマ漫画)  
\* 「自然法爾」(お寺さんのお話)  
\* 「おわりに」



元々は9月開催予定の会でしたが、町内のコロナ感染拡大の状況を踏まえ、延期して開催致しました。

遅ればせながら… 『光寿苑敬老を祝う会』 10月6日





高橋トミ子さん【102歳】

お茶と相撲が大好きだったトミ子さん。力士の中では遠藤が大好きでした。家族を大切に思い、私たち職員に笑顔で“ありがとう”ございます、と感謝の気持ちを伝えてくれた事等、人を思いやり、感謝の心を持つ大切さを教えていただきました。ありがとう、トミ子さん♡

《柴田恵美》

不屈の精神力で一世紀超…慈悲の心は永遠に

# 『今生より往く』

## 敬老を祝う会フォト



### 寄附・寄贈

- ★ 匿名様 [西和賀町]
- ★ 高橋光子様 [湯本]
- ★ 高橋広雄様 [分沢]
- ☆ 高橋ちづ子様 [下前]
- ☆ 伊藤堅一様 [上野々]
- ☆ 高橋光子様 [新町]
- ☆ 佐々木里子様 [北上市]
- ☆ 照井和江様 [北上市]
- ☆ 石川顕様 [盛岡市]

### 面会・外出 (9月1日～30日)

- 【★面会】… 家族等
- 対面 延べ18組 (32名)
- 窓越し 延べ6組
- オンライン 1組

### ボランティア等

- 畑掘り(9月10日)
- ☆菊地雄輔様 [上野々]

★=光寿苑、☆=ひなたぼっこ

光寿会へのご支援おかげさまでした

## 【ひやりはっと及び事故まとめ】(令和4年度上半期)

前年同期比『27件減』

事故内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
外傷	16	14	19	16	14	16	95
転倒・転落	8	12	6	13	5	6	50
与薬	3	3	1		2	1	10
見守りエラ	3	3		2	1		9
管理ミス	4		1		2	2	9
点滴	1	2		1	1	2	7
紛失・破損	1		1		1		3
誤嚥・誤飲				1	2		3
異食						1	1
尿カテ	1						1
自傷						1	1
褥瘡				1			1
合計	37	34	28	34	28	29	190

所見	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
内出血	12	12	13	10	6	8	61
表皮剥離	2	1	1	2	3	1	10
擦り傷	1		1		1	5	8
爪外傷		1		3		2	6
掻き傷	1					1	2
創傷			2				2
切り傷				2			2
打撲					1	1	2
ケガ無し	21	20	11	17	17	11	97
合計	37	34	28	34	28	29	190

場所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
居室	26	23	18	23	18	22	130
浴室	4	5	3	4	1	1	18
廊下	2	4	2	4	3	2	17
トイレ	1		3	2	2	1	9
ホール	1		1	1	2	2	7
介護室	1	2				1	4
ベッド	1				2		3
脱衣所			1				1
湯の町茶の	1						1
合計	37	34	28	34	28	29	190

事故発生時間帯	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
06:00 ~ 08:00	1	6	2	1	1	4	15
08:00 ~ 12:00	8	9	10	8	4	8	47
12:00 ~ 18:00	15	13	12	13	12	12	77
18:00 ~ 22:00	8	5	3	4	6	2	28
22:00 ~ 06:00	5	1	1	8	5	3	23
合計	37	34	28	34	28	29	190

要介護度別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
要介護Ⅲ	18	13	9	7	9	8	64
要介護Ⅳ	8	11	9	12	8	11	59
要介護Ⅴ	11	10	10	15	11	10	67
合計	37	34	28	34	28	29	190

昨年度同時期に比べ【発生件数】が27件減少しているが、その最たる要因は【外傷】が42件減少したことであろう。特に【内出血】が30件減少したが、これには昨年度経管栄養を施行しているお年寄りに頻発した内出血が減少した点が挙げられよう。またその様な頻発する状況に対し、介助方法の工夫を講じて発生の予防に努めた事が、全体の発生を抑える効果にも繋がった可能性が考えられる。

反面、【転倒・転落(未遂も含む)】件数は全体で20件増加しており、内28%が2名のお年寄りに集中する結果となった。全体の傾向としては、自分で身の回りの事を行いたいと身体が思うように動かず転倒・転落が生じたケースや、これまで通り動けるつもりで行動した事から発生したケースが殆どだったが、介護者側が安全な環境を十分整えられなかったが故に発生したケースも、少なからず散見された。また、新たに入居したお年寄りの割合が20%を占めたことから、人と環境に本人・職員共不慣れな状況が、転倒等の生じやすい条件となった可能性も示唆された。



# 湯本鬼剣舞保存会ご来苑 9月23日

第61回

その年にご逝去されたご自宅等を踊り廻る湯本地区の『念仏剣舞』の皆様がご来苑。コロナ禍で友愛訪問等が少ない中、お年寄りたちの前で勇壮に舞って下さいました♪



不定期シリーズ

# 社協主催 西和賀町福祉まつり 10月2日

コロナ禍でこの2年開催が見送られてきた福祉まつり。どうすれば開催できるか、何がやれるのかを話し合い、この度3年ぶりの開催が実現しました。【写真の通り】

地域の窓





# 想...

## 災害を捉える

～北海道から発信します⑥～

### 『心の荷物を背負い直していく事の大切さ』寺澤三郎さん

光寿会理事長と大学時代の同期生。災害の根本には人間の煩惱が関わっている。そのような視点を踏まえてこのコーナーをご依頼。今回、最終稿となります。じっくりご拝読下さい。

天災・人災に襲われ続ける時代にあって思い通りにならない世を生きる視点

#### 最終回

#### 【心の荷物を背負い直していく事の大切さ】

一人の死は悲しい。しかし、残った私たちが、その事から何も学ばず、何一つ新しいものを生み出せないとするならば、それはもっと悲しい。

大切な人と死別するという出来事は、とても辛く悲しい事柄として私の人生に重くのしかかり続けます。さらに、その人との関係性が深ければ深いほど、その悲しみは苦しみに変わり、生きる希望を失わせ、沈んだ日暮らしとなる事もあります。

「沈む」という事は、人間にとって最も辛い状態です。重たい荷物を背負いながら、自分の力で立ち上がり、歩み出すという事は決して容易な事ではありません。

一方、大切な人との死別は私にとって目を背け続けたくなる事柄ではあったりも、逃れようのない、

また、背負わなければいけない、そしていつかは向き合わなければいけない事実である事も確かな事です。

そのような時、重たい荷物は無くならなくても、立ち止まり、座り、休み、背負い方を変え、協力しながらその荷物を持つ事で、人は立ち上がり、少しずつ歩みを進めていく事ができていくのではないでしようか。

逆に言えば、そうしなければ、重たい荷物を背負う事も、歩を進める事もできないのか「私」なのかも知れません。

決して、一人でその荷物を背負わないでください。背負い方、持ち方、座り方、休み方、立ち上がり方、歩み方等々を他者と話し合い、聞き合い、見つめ合ってみませんか。

もし、その学びによって、大切な事を発見しながら、歩みを進められる事ができるならば、その荷物、目を背向けたくなるような重たい荷物から、リとも大切な私の荷物」として、背負い続ける事ができるようになるかも知れません。

最後に、私かとても大事にしてる言葉、天災や人災によって死別を体験され、辛く悲しく苦しい思いをされているお一人おひとりに、想いを馳せながらお伝えさせていただきます。

一人の死は悲しい。しかし、残った私たちが、その事から何も学ばず、何一つ新しいものを生み出せないとするならば、それはもっと悲しい。

この言葉から、一人の人の死は、私にとって、とても辛く悲しく苦しい事ではあるけれども、残された私か、その事から少しでも何かを学び、何か一つでも大切な事を感じ取る事ができたなら、それは、ただ悲しいという事では終わらないのである。

サブロー





今月の登録者の方々  
13名様です♪



### めっきい秋らしくないました…「ひなたぼっこの日常」



- ① 沢内中学校2年生職場体験
- ② お庭でランチタイム
- ③ お茶会『屋内運動会』

### 第3回『運営推進会議』(9月28日)

委員10名、職員4名出席

① コロナ感染者が町内では増加している中、どんな影響があるか？

② 現在、光寿会全体では1名の感染者がいるが、早めから未然に自主的検査等行い、最小限に留められています。一方で、町内の某クラスター関連で濃厚接触者となった職員が複数名おり、自宅待機を余儀なくされ、その面での人手不足が発生しています。ただ、ひなたぼっこ職員は、今回、影響は受けておりません。

③ 抗原検査キットは、職員に配布する等しているのか？

④ 数に限りもあるため、配布はしていません。濃厚接触者となった場合、復帰のタイミング等では該当する職員に渡しておりますし、

⑤ 陽生者との接触等を懸念する職員には買ってもらう等して対応もしています。また、医療用の検査キットが手に入りにくいため、町と協議している所です。

⑥ 防災対策として、静岡の例もあるが、水の備えは大丈夫か？

⑦ トイレの水の問題は特に対応できていない。

⑧ 下水道に使える水の確保はしっかりと考えておく必要がある。

⑨ 様々な問題解決のため、上野地区の防災訓練に参加頂くことですすめています。

⑩ 来る10月9日の上野地区防災訓練に、職員として出席します。

⑪ 地区の仕組みが変わり、湖畔の宿に住所のある人居者の方にも、賛助会員として加わって頂きたい考えでいます。

⑫ 来年度、応対します。





光寿苑敬老会ではお馴染みの敏子さん

先月号に引続き、家族会地域役員・高橋敏子さんのご寄稿と併せて、敏子様ご姉妹から賜ったお便りもご紹介させていただきます。  
[2頁に掲載しましたが、この度、お母様をご逝去されました]

## 母と私の思い出②

次女が生まれたのは6年後になりますが、それも20週目で入院生活でした。生まれてきてくれた時は2人の子と大きな子でした。母にとって2人の孫は、自分の子のように、保育行事から幼見検診と、小学校入学まで苦勞をかけた。娘たちも大きくなり、長女は車の免許を取り、働くようになりまし。休みには、母の大好きな温泉に車で一緒に行く事度々でした。とても喜んでいたものです。数年後、母は骨の病氣と

なり、2年後には大腿骨から下の左足切断という苦しくて悲しい出来事になりました。義足を作ってもらい、栗石のリハビリセンターで1年近く、辛く苦しいリハビリ生活を受けて、赤けるようになり退院となります。雨降りの日も除き、毎日のように小学校へ旧第一小学校へ付近まで散歩していました。歩いてる姿は、今でも月に浮かびます。私たち姉妹も、娘2人も、母の姿に感動しながら毎日を過ごしてきました。義足から車いす生活と、歳を重ねると共に動けなくなっていくきました。手先は器用な母だったので、刺し子や千羽鶴など、十数年取り組み続け、沢山の作品を残してくれました。また、踊りも上手な母でしたので、私はその影響もあって踊りが好きになり

ました。私の踊りの指導にも余念がなく、他の人の踊りのよい所を観察しては、具体的に誉めながら指導してくる人でした。私にとっては、尊敬する母です。  
光寿苑にお世話になって5年近く、家族と離れていても私たちのことを心配してくる母を見て、思返しできたのかな?と思いつながらの日々でした。おかげさま。

⑥完

光寿苑の皆様へ  
ほんとうに、ほんとうに、ありがとうございます。ごさいました。  
母は光寿苑を終の住処と決め心置きなく天国に行きました。72歳の自分が母の為に下手でも絵手紙を書けてることに幸せを感じていました。7月に会えたことが何よりの感謝です。絵手紙を書きながら会えないまま母に逝かれたら「どうしよう」、ていつも考えました。  
意識のある内に合わせてあげようと光寿苑の方から連絡いたでいて会えることが出来た。  
あの時にもう最後だと自分にいかり言いきかせて踊りました。  
母はすごいお母さんには目標になりません。人情深く、やさしく、強くたくましい人でした。代筆してくださった柴田さん  
ほんとうにありがとうございます。ごさいました。

こちらは遠方でお暮らしの娘様から光寿苑宛てに頂いた暖かいお便りです♪

# 元気です！家族会♪【特別編】



# 光寿苑 282号♡



イラスト：1000

お年寄りの生活の場であるため、苑内の放送は普段使うことはない。緊急時やコロナ禍での特別な活用。その活用の中で、お年寄りからのアナウンスが入ると、ルーチンワークになりがちな換気もそうではなくなり、むしろ、思わず「承知！」みたいな気持ちも引き出される。

## 俺たちは杉の林、協力はするが独立する

### 武者小路実篤

#### 第81回 丸田善明

##### 自然法爾

〔じねんほうに〕

武者小路は理想郷の実現を目指して、大正ク年、宮崎県に村落共同体「新しき村」を建設した人として知られている。冒頭の言葉は次のように続く。

俺たちは人間協力するが独立する

福井市の医師、米澤秀雄が来ているから、お話しを聞きにおいで。と、祖電先生からお手紙を頂いて碧祥寺に上がったのは、もう50年も前のことか。どんなお話しだったか忘れてしまったが、柔和なお顔立ちから発せら

れていた心に響く言葉が忘れられない。  
その米澤先生が、武者小路のこの詩に寄せた言葉がある。

人間が群集になつてしまつた。メダカのように、先頭が右に行けば右、左に行けば左。自分の判断、人生の目標を失つてしまつた。衆生は群集とはちがう。一人一人に仏から呼かけられた言葉だ。一人一人を独立者とするために、衆生を自覚した一人一人が浄土を目指して生きていく。そこに杉林の如き、独立と協力の美しい社会が生まれるだろう。時を経て、私一人に再び響いている。

### おわりに

自分に「災い」と思う出来事が起こった時、お祓いをする人もいれば、「リセット」という形でそれまでの関係を絶つ事を選択する人も多く見かける。確かに、リセットして、フレッシュな気持ちで「ゼロ」から再始動したい。その気持ちはよく分かる。

しかし、このリセット、よく観察すれば、自分に不都合な事や嫌なものを見ないようにしているに過ぎず、結果は「自業自得」、嫌な相手を退ければ、自分自身に背く事になる。一時は逃れられても、自分の業は将来再び自分に返る。嫌な事、悲痛にも時間かけて向きあってこそ、自らの「得」と成る。



※災いは外だけでなく、自らの内にも因縁あり